



本郷台小 だより

5 月

横浜市立本郷台小学校
令和5年4月28日
栄区本郷台一丁目6番1号
Tel. 045-893-4010



学校ホームページ : <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nongodai/>

楽しむ

校長 原 南実子

新緑の季節になりました。校庭の桜の木は青葉を輝かせ、竹林は薫風にしなやかに揺らいでいます。穏やかな日差しのもと、4月に入学した1年生は、なかよしタイムで校庭やトンボ池で目を輝かせながら活動しています。一人ひとりが、楽しそう！やってみたい！というものを見つけ、心を動かし、自分から学校という環境にかかわっていく姿に、園で生まれた主体性が発揮できていることを感じます。

さて、本郷台小ホームページ4月8日の☆今日の台小☆でもお届けしましたが、始業式で述べた6年生の児童代表の言葉に、子ども達だけでなく職員もみな心を打たれました。いい一年を、楽しみながら創っていこう、という言葉に勇気と元気をもらうとともに、子ども達の成長を見守る私たちの心もちについて、改めて考えさせられました。では紹介します。

私は、6年生の終わりに「最高に楽しかった」と思える6年生になりたいです。また、他の学年から「楽しそう」と思ってもらえるようになりたいです。どうしてそう思ったのか、そのきっかけを3つお話しします。きっかけの一つ目は、お兄ちゃんの高校の卒業アルバムを見ていて、各クラスのみんが楽しそうで、「いいな」と思ったからです。まず各クラスの写真があって、そのあとに企画のページがありました。そのページは、生徒自ら制作していて、各クラス全然違うページなのに、とっても楽しそうで「いいな」と思いました。きっかけの二つ目は、図工の大淵先生のお話です。「自分から楽しいと思わなかったら、学校も遊園地も楽しめない」ということです。ディズニーランドはみなさん好きですね。おどろくべきことに、ディズニーランドでも楽しめない人もいます。どんなに楽しい場所でも悪い方にとらえていたら「楽しくない」と感じてしまいますが、「楽しい」ととらえることによって「楽しい」と思えることができる、というお話でした。私はそれを聞いて、「それでできるんだ」と思いました。きっかけの3つ目は、運動会のソーラン節です。私は最初、ソーラン節に決まり、楽しみでした。でも、6年生に教えてもらった時に予想以上にきつく、とても大変でした。でも、6年生がコツなどを教えてくれて「私もがんばろう」と思えました。当日、もちろんこれまで教えてもらったことを意識しましたが、一番は「楽しむ」を意識しました。なぜかという、5年としてソーラン節を踊るのは一回きりです。なので「楽しもう」と思えました。そして、全てを踊り終わった時には「楽しい」や「爽快感」がありました。最初は「それでできるんだ」と思っていたけど、今では「こんないい事があるんだ」と思えるようになりました。

私は、今年度の3月に卒業します。なので、6年間過ごした本郷台小学校で最後の学年なので最高に楽しみたいです。なので、学習や委員会活動でも、つらい時でも、よい方にとらえて、卒業式で「最高の年だったな」と思えるような年にできるよう楽しみたいです。また、本郷台小学校のみんなが毎日前向きで過ごしてほしいと思っています。

「楽しむこと」は、心と体にパワーを生み出します。夢中になり、没頭するそのパワーは、人を主体的に、創造的にしていきます。自ら生活を豊かにしていこうとする、そんな力を生み出します。脳科学でもそれは裏付けされているそうです。「楽しむ」気持ちは主体的な学びと自分たちの生活を豊かに創り上げていくための原動力。始業式の6年生の言葉を聞き、改めてその大切さに気付かされました。今年度も本郷台小の子ども達が創りだしていく学びを、日々の生活を、保護者や地域の皆様とともに温かく見守っていきたいと思います。そして、子ども達と同じように、私たち大人も楽しむ気持ちを大切にしながら過ごしてまいりましょう。



はまみらい